



第7号
2006年12月22日発行
広島市立美鈴が丘高等学校
同窓会事務局
広島市佐伯区美鈴が丘緑
二丁目13-1
Tel (082)927-2249
Fax (082)927-5530
印刷：西日本印刷株式会社
Tel (082)238-2112



母校校長からの挨拶

田中 義郎 校長

美鈴が丘高校同窓生のみ
なさん、こんにちは。

四月に校長に就任した田
中です。開校時から本校に
勤務し、途中二年間他校で
の勤務のあと、二年前に再
び本校に帰りました。私自
身、皆さんと同様の愛着を
感じる学校であり、今後
益々発展することを強く願っ
ています。

さて、本校は来年で開校
二十年目を迎えます。卒業
生の数も今春で六、三三六
名になりました。クラス数
こそ開校時の十クラスから
現在は各学年七クラスになっ
ていますが、施設において
も本工事完成以後、弓道場
(平成五年)、コンピューター
教室(平成六年)、剣道場
(平成八年)と充実し、また、
平成十三年には国際理数コー
スが設立されるなど着実に
充実発展しています。地域
においても、勉強もクラブ
も頑張る美鈴が丘と評価を

受けています。

学習面における例を挙げ
れば、大学進学の実績も着
実に上昇しており、今春の
大学合格者数は国公立五十
三名、広島県内の私大進学
の例では、広島修道大学に
一一七名が進学しました。

クラブ活動は文化系、体
育系ともに、県内トップレ
ベルのクラブが多くあり、本
校を第一希望とする中学生
は例年多くいます。今夏は
テニス、吹奏楽、美術部が
全国大会に出場しました。
国体にはテニス、水泳、ラグ
ビー、バスケットボールの
選抜選手が出場しました。
ポランティア活動では、
文化祭などにおける献血活
動が評価され、今夏は県知
事から感謝状を受けました。
このような活動・評価も開
校以来、先輩達の努力によ
り築いてきた校訓の「進取・
友愛・節度」の精神が実を
結んできたということであ

り、同窓生の皆さんには感
謝申し上げます。社会にお
いても同窓生一人ひとりが
健康で活躍されることを切
に願っています。併せて、
母校は皆さんの心のよりど
ころでもあります。今後と
もいろいろな観点から母校
の声援・援助をお願いいた
します。



美高創立二十周年に 向けて

平成十八年度PTA会長
木川 学

美鈴が丘高校同窓会の皆
さん、こんにちは。初めて
同窓会会報に登場します。
美高PTA今年度会長の木
川と申します。

さて、皆さんもご存知だと
思いますが、来年度は美高
創立二十周年を迎えます。

この間当校は、母校を卒
業して十数年経った第一期生
から、卒業一年未満の第十六
期生まで計六、三三六名の卒
業生を輩出しています。しか
し、現同窓会の活動は休眠状
態であるのが実情です。
当たり前のことですが、

同窓会も歴史を刻み大き
な所帯になりつつあります
が、ここ数年同窓会も開催さ
れず心配しておりました。
この度、四年ぶりに開催さ
れることを嬉しく思ってい
ます。久しぶりの同窓会に
一人でも多く参加し、思い
出話に花を咲かせましょう。
同窓会の発展は母校の発展
でもあります。役員・幹事
の皆さんによる一層の努力
と、会員の方々の協力により
同窓会の組織が益々強固に
なることを期待しています。



母校とは自分が卒業した学校
のことです。同窓生とは、教
鞭を執られた恩師と同じ学び
舎で過ごしたという共通項を
持った人間の集まりです。
同窓生の多くは、卒業後
に美高に足を運ぶことが無
いのが実情なのでしょう。
学校は、校舎は、変わり
はありません。しかし、少
子化の影響を受け、在校生
数は一学年二八〇名、全校
生徒数八四〇名です。将来
も減っていくことはあれ、
増えることはないでしょう。
このままで、美高は存続し

寒気厳しき折、美鈴が丘
高校同窓生の皆さま、日々
いかがお過ごしでしょうか。
新設高ともてはやされた母
校も、来年で創立二十周年を
迎えます。その三年後には、
我が同窓会も創立二十周年
を迎えることとなります。
古参の同窓生は、仕事や
育児に没頭して舞いの日々
を送っていることでしょう。
故郷広島を離れて新生活を
営んでいる同窓生もいるこ
とでしょう。今春母校を卒
業した卒業生でさえ、高校
生活を振り返ることは少な
ていけるのでしょうか？

同窓会創立二十周年に向けて

同窓会役員会より

くなったことと思います。
母校は新設高時から、学業
よりクラブ活動に熱心でし
たので、同窓会よりクラブ
OBのつながりに吸引力が
あります。しかしそれは美
鈴が丘高校という学び舎が
あってこそのお出会いです。
ぜひとも、母校同窓会に愛情
を注いで頂きたいものです。
わが同窓会会員は、二〇
〇六年春に卒業した第十六
期生を迎えて六、三三六名と
なりました。少子化に伴って
母校の入学人数は減少して
いますが、毎年二百名以上の
同窓生を生み出しています。
もう小さな組織とはいえま
せん。高校時代の余韻で存続
していく同窓会ではなく、母校
の未来と同窓生の未来が結び
ついた組織に変わっていく必
要に迫られていると思います。
この度はその一環として、
母校のPTAに協力してい
ただき、PTA新聞を同封させ
て頂きました。在校生の活躍
をご覧ください。また、PTA
Aも同窓会の窮状に危機を
抱いておられますこと、併せ
てご報告いたします。

ぜひ創立二十周年記念事
業を成功させたいと思いま
すので、同窓生の皆さん、
同窓会に積極的に参加し、
PTA活動に協力して頂き
たいと思います。よろしく
お願い致します。

二十年の節目を迎えるに
あたり、年月と共に老若男
女の絆が生まれるような組
織にしたい。わが同窓会は
「成人」となる準備を始めた
と思います。皆さまのご支
援、ご協力を賜りますよう宜
しくお願い申し上げます。

